



### 生き物とは

ほたる飛び交う中地区を目指す運動の会 会長 森田 弘  
5月中旬になると地域全体が黄金色に埋め尽くされ麦酒の時期になります。とても美しく心が和む気候の時期です。それから少し経つとほたるが飛びます。ほたるの季節です。

ここ2～3年中小学校理科室では、5月にほたるがたくさん飛び交います。去年に至っては、5月1日に多くのほたるが飛び交い「ミニほたるを観る会」を開き、多くの方々に感動していただきました。成虫だけでなく幼虫そして卵まで光りを放ち、感激しました。そのため今年、1週間早めて「中地区ほたるを観る会」を開催することにしました。ところが、今年に限ってほたるがなかなか飛んでくれません。理科室のほたるも5月24日に「ミニほたるを観る会」を開くことがやっとでした。しかも5～6匹しか飛びませんでした。生き物の扱いはなんと難しいのかとつくづく感じました。ただ願いが叶ったのか、当日は十数匹飛んでくれました。

羽化したばかりで元気よく飛び交い多くの歓声が上がっていました。皆様が大変喜んでる姿を見ると、この活動をやっている良かったと思えました。

また体育館でのほたる籠作りが盛況で8時30分過ぎまで時間を忘れ熱中している姿が印象的でした。多くの人に支えられ今年も「中地区ほたるを観る会」が無事に開催されて良かったと思えます。

今後ともご協力よろしくお願い申し上げます。

### 中小の子どもたちのために有り難うございます

小山市立中小学校校長 渡部 成人

今年度4月1日小山市立第三小学校より赴任しました渡部成人です。どうぞよろしくをお願いします。

中小学校で「田んぼの学校」が始まって、今年で19年目を迎えます。5月13日には「ほたる飛び交う中地区を目指す運動の会」のご協力の下、田植えを行うことができました。私も田植え用の足袋を地域の方からお借りして、なんとか苗を植えることができました。

子どもたちは、手慣れたもので、上手に植えています。さすがだなと感心せずにはいられませんでした。

また、5月31日・6月1日には、18回目のほたるを観る会が行われ、大勢の方々に31日の式典やほたるの観賞に来ていただきました。式典では、6年生がほたるを飼育してきた実践発表の他、卒業生からのメッセージ発表、ふるさとの歌人「田波御白」を想って、児童の五七五の発表を行いました。



これだけ長く続けてこられ、「ほたる飛び交う中地区を目指す運動の会」の皆様や田んぼを管理して下さっている松本様など多くの皆様のおかげであると思えました。

中小を愛する地域の皆様に深く深く感謝申し上げます。

## 秋の実りに期待を込めて

### ～ 中小学校田植え 児童と地域の方と、一緒になって ～

中小学校の田植えは、大勢の地域ボランティアやPTAの方々に参加され、好天の5月13日に行われました。まず、増田博利さんから苗の植え方の説明があり、水の張られた田んぼにはだしで入ります。準備された苗を手にして軟らかい土にさすように植えていきます。

田んぼ一面に植えられた早苗が分蘖して株を増し、やがては稲穂が頭を垂れていく様子が日ごとに登下校の時に見られますよ。



## 一口メモ

### 「稲」と「米」の語源

**稲**  
稲は食料として大切なことから「いひね（飯根・飯米）」といわれた。また、わらを加工して多くの物がつくられ生活と切っても切れない関係から「いのちね（命根）」「いきね（生根）」など生命と結びつけて称された。

**米**  
米の語源は、神の祭りに米を供えるなど神聖な生命力が「コメル（籠る）」という説とか米粒は、モミ（穀）の中に「コメル（籠もる）」という説があります。

雷光が秋に多発して、霊と結合し稲穂を実らせると信じ「穂の夫（つま）」の意味で雷の閃光は「稲妻」の語が生じたともいわれます。

稲と米は昔から生活上で大切な存在だったのでね。

みんなどうえ

一ねん

きょう、たんぼでみんなといっしょにたうえをしました。

たんぼのなかにはどろどろで、はだしではいっただろにゆぐにゆっていました。

五七五

はじめてのたんぼのなかにはどろどろだ

ちいきのかたと田うえ

二年

いた田うえが五月十三日にありました。ちいきの人やボランティアのかたがたがきてくれました。なえのうえかたをます田さんがおしえてくれました。なえは五・六本くらいにできないとだめになつちやうといっていたのうえをつけてやりました。ちいきのかたがうえいきてくれたので楽しかったです。

五七五

いろいろなおしえてくれて ありがとう

えのき祭でおにぎりを

三年

五月十三日の一・二時間目に田植えをやりました。天気が良かったので、田んぼの水がぬるかったです。三年生になったのでだれからの手だすけもなく一人でなえを上手にうえることができました。

今日みんなどうえたなえが大きくそだつて秋のえのき祭でおにぎりとして食べられることが今からとても楽しみです。

五七五

田うえでね どんどこだけど がんばれた

元気に育て

四年

四回目の田植えが始まりました。田んぼに入るとき足がぬげなくなりそうになったので、ころばないようにしました。私はなえをくぼりしました。その後、なえをうえました。なえのうえ方をます田さんが分かりやすく教えてくれたので、楽しくできました。早く元気に育ってほしいです。

五七五

ひとつずつ元気づけよう 育ててね

楽しみなえのき祭

五年

高学年としての田植えが五月十三日にありました。私は最初になえを配り、その後五・六本位になるようにうえました。なえが横に倒れないように気をつけながらやりました。なえが大きくなる「いな」と思いながら田植えをしました。上手にできて良かったです。植えたお米が、えのき祭でおにぎりになるのが楽しみです。

五七五

中小米 えのき祭が 楽しみだ

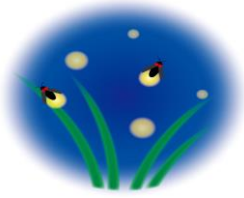
地域の方々に感謝

六年

天候に恵まれた田植えが、五月十三日にありました。私たちは最後の田植だったので、楽しんで取り組みました。これから稲刈り・だっこくなどがあります。お米を作れることを地域の方々に感謝して最後の稲刈り、だっこくもじっくり取り組もうと思えました。

五七五

米作り 地域の方に 感謝しよう



# 平成31年2月25日 幼虫放流式

うずま川に戻っておいで

## 世話をしっかりします

わたしがピオトープに幼虫を放流して思ったことは、6月のほたるを観る会できれいに飛んでほしいと言うことです。

そのために幼虫の世話をしっかりして、ほたるが光るようにしたいです。みんなと協力してほたるを育てます！

平成最後の幼虫放流式が2月25日に行われました。学校のピオトープに全児童で幼虫を放流しました。その後、ほたるが飛び交ううずま川になるようにと5年生（現6年生）がほたるの橋付近の河原を清掃し、ほたるの幼虫とカワニナを放流しました。いつの日かほたるが飛んでくれることを願い放流しました。



ミニピオトープの幼虫やカワニナを放流しました。ハイケもゲンジも大きくなって驚きました。ほたるを観る会に向けて当番を忘れないようにしたいです。また、ピオトープの環境も時々点検したいです。うずま川にほたるを呼び戻すために頑張ります。



## 中地区の風物詩 ほたるを観る会 5月31日開催

### ほたるがとてもきれい 6年

5月31日に「ほたるを観る会」がありました。小学校生活最後の「ほたるを観る会」なのでこの日をとても楽しみにしていました。ほたるがたくさんピカピカ光っていました。また、ほたるの発表では、上手にスライドを動かすことができたと思います。本当に楽しい「ほたるを観る会」になりました。

**五七五**  
～ 楽しかった また見たいな ほたるたち ～

### 頑張ったほたるの発表 6年

「ほたるを観る会」で私が頑張ったことは、ほたるの発表です。みんなの前でなかなか発表することがなかったので、家や学校でたくさん練習しました。それで、ほたるの発表は上手くできたと思います。また、ピオトープにはたくさんのほたるが飛んで、きれいでした。6年生最後の「ほたるを観る会」すごく楽しかったです。

**五七五**  
～ 6年生 最後のほたる 美しい ～

### 最後のほたるを観る会 6年

今年最後の「ほたるを観る会」だったのでしっかりとできました。また、ピオトープの中に入ったら、ほたるがいたのでよかったです。今の5年生には、来年ほたる飼育のバトンを渡します。しっかりと飼育して来年はたくさんのほたるが飛ぶようにしてください。

**五七五**  
～ 最後まで しっかりできて よかったな ～



教育班の皆様には、ほたるかご作りのために八条麦を栽培し、麦わらを準備していただきました。数時間でほたるかごをつくることが出来ましたが、ほたるを観る会のためには、準備をさらに進めたいです。準備し、籠作りを教えてください。ありがとうございます。

ほたるかご作り研修

岡本 美紀

## ほたる飛び交う中地区を目指す運動の会 各班の紹介

「ほたる飛び交う中地区を目指す運動の会」とは、保護者・教職員・賛同者が協力して、児童の夢である『うずま川にほたるを蘇らせる』活動を目的とする。（会則 第2条より）

### 教育班

「ほたる籠づくり」指導や水辺のピオトープ生態調査等を行います。今年度は5月25日(土)にほたる籠作り講習会を行いました。教育班の他にPTA 役員の広報班の方、中・小学校の教職員も参加しました。講習会では参加者が真剣に説明を聞き、熱心に籠をつくっていました。

ほたるを観る会の当日のほたる籠作りのコーナーでは、教育班を中心に、参加していた児童や地域の方々と籠作りに励みました。参加者は時間か経つのも忘れるくらい熱心でとても盛況でした。

### 飼育班

ほたるやほたるの餌となるカワニナの飼育、児童への指導を行います。近年では、学校で羽化したほたるが交尾をし産卵、その卵が孵化して幼虫、そして成虫へと成長するサイクルができるようになってきました。

2月には大きくなった幼虫を学校のピオトープやほたるの橋付近のうずま川に放流します。今年うずま川のほとりに造ったピオトープにも放流しました。

飼育については、難しいことはありません。ほたるの飼育に挑戦してみませんか？いつでも御相談ください。

### 広報班

広報誌「うずまのほたる」の年2回の発行にあたり、原稿依頼・編集会議・印刷、配布を行います。また、ほたる飛び交う中地区を目指す運動の会の広報活動に関することを行います。

前期の発行では、田植えやほたるを観る会（廃品回収や事前準備を含む）を後期の発行では稲刈りやお祭、えのき祭を記事としています。記事については、原稿依頼をすることがありますので、御協力をお願いします。今回は、ほたるの活動の4つの班を特集してみました。

### 施設班

ほたるや水辺のピオトープの整備・改修に関する活動を行っています。ほたるピオトープやポンプや水路等の整備では施設班員を中心にほたるボランティアのみなさんと整備をしています。また、ほたるの幼虫が上陸し土の中に潜るように土おこしをします。

今秋は、水辺のピオトープの中の泥をさらったり、竹の柵の補修をしたりする予定です。予定が決まり次第お知らせいたします。



五月二十五日(土)に廃品回収を行いました。令和になって初めての廃品回収ではなんと二〇万五、三二〇円になりました。

廃品回収



事前準備

廃品回収の後に「ほたるを観る会」の準備を行いました。ほたるの会・PTA・教職員が協力して、和気あいあいの雰囲気です。

### うずまのほたる 広報班

神山 芳典・神山 宜久・田波耕太郎・神山 芳則・須賀 保典  
田口 時雄・奈良 郁絵・神山由佳子・金子 弘隆・小林真理子

### ＝ 編集後記 ＝

「うずまのほたる」も第33号発行に至りました。6年生の2年間のミニピオトープ活動ご苦労さまでした。自分たちが育てたほたるが飛んでさぞ嬉しかったことでしょう。おめでとうございませう。